



2025 年 4 月 30 日

各 位

会 社 名 東 武 鉄 道 株 式 会 社  
代 表 者 名 取 締 役 社 長 都 筑 豊  
(コード番号 9001 東 証 プ ラ イ ム)  
問 合 せ 先 財 務 部 課 長 清 水 康 介  
(TEL. 03 - 5962 - 2182)

## 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

当社では、このたび、当社グループの企業価値向上に向けて、より一層、資本コストや株価を意識した経営の実現を図るための今後の取組み方針等について、本日開催の取締役会において決議いたしましたので、お知らせいたします。

詳細につきましては、添付資料「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について」をご覧ください。

以 上

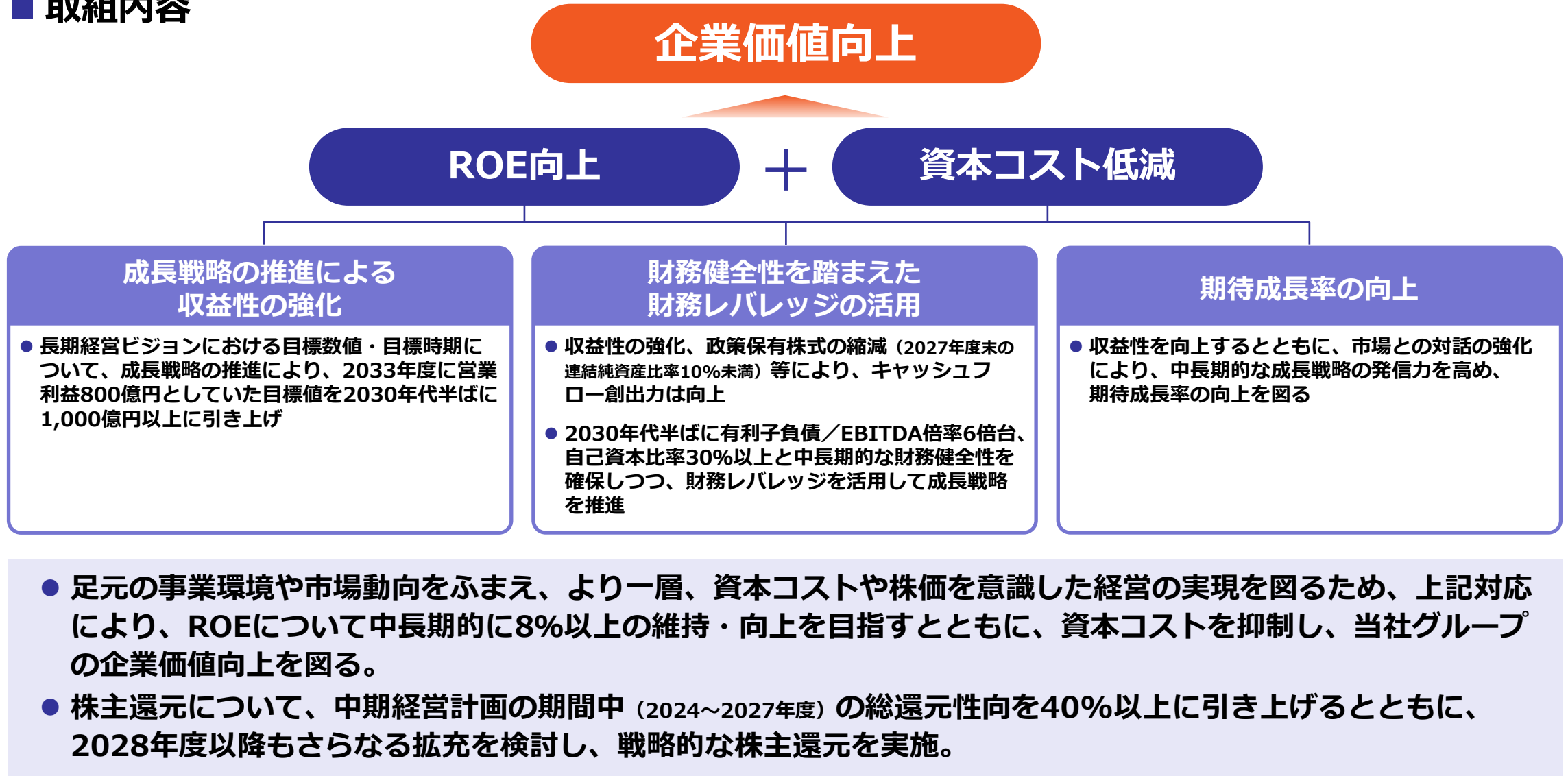
# 資本コストや株価を意識した 経営の実現に向けた対応について

2025年4月30日

東武鉄道株式会社

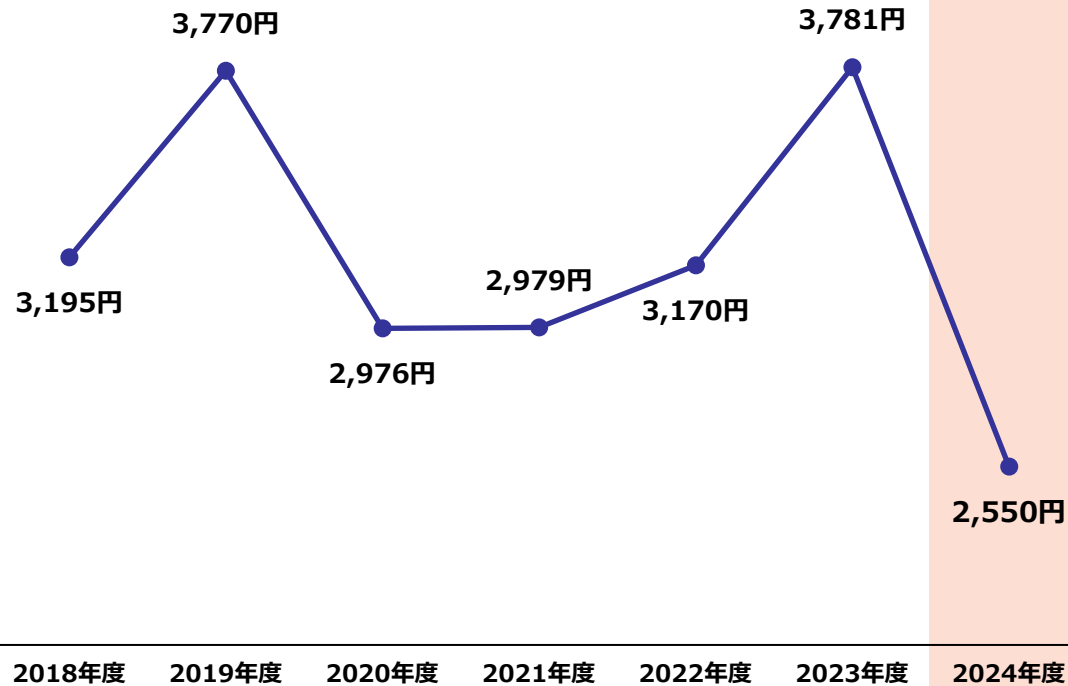
# I. 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について

## ■ 取組内容



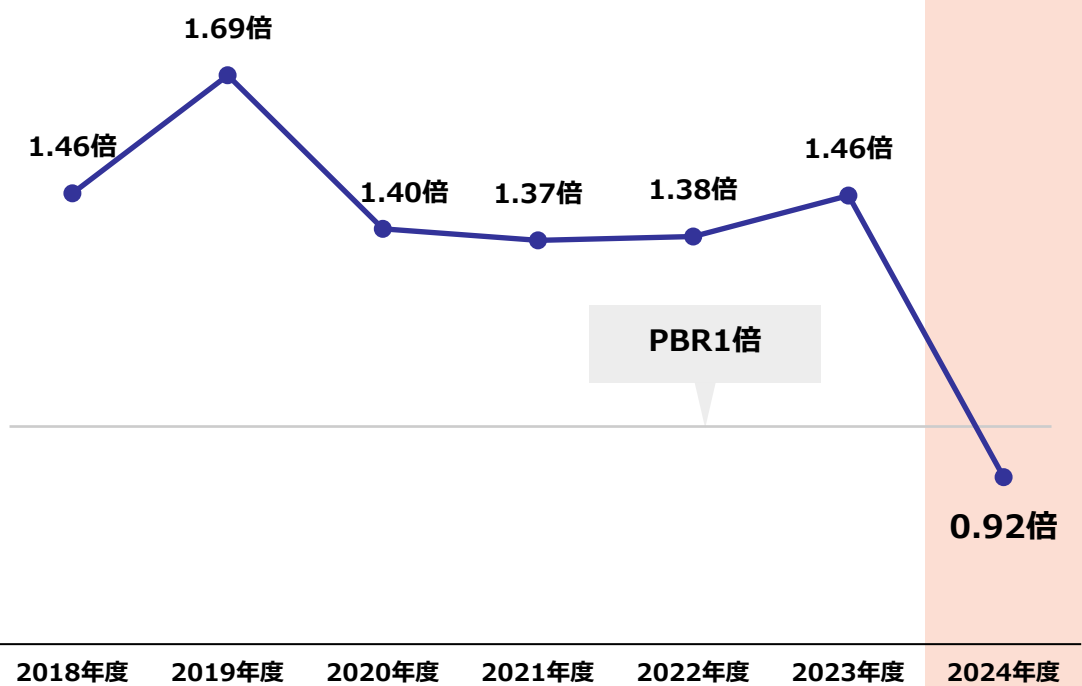
## Ⅱ. これまでの財務指標の推移と現状認識①（株価関係）

### 株価の推移※1



※1：各期間における終値

### PBRの推移※2

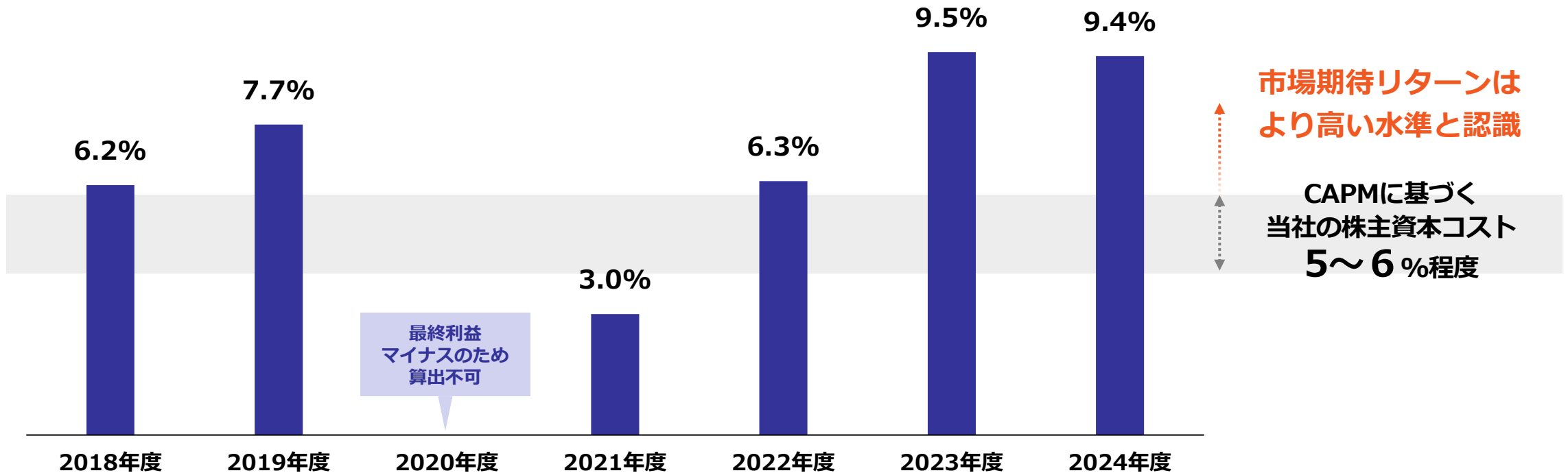


※2：期末時点の値

- 株価・PBRともに、直近の2024年度において低水準となっている。
- PBRは2024年度においては1倍を下回っており、将来的な成長目標の水準が低いことや、当社グループの成長戦略を十分に発信できていない事が一因であると認識。
- 今後、中長期的に企業価値を高めるため、具体的な方策に取り組むことが必要。

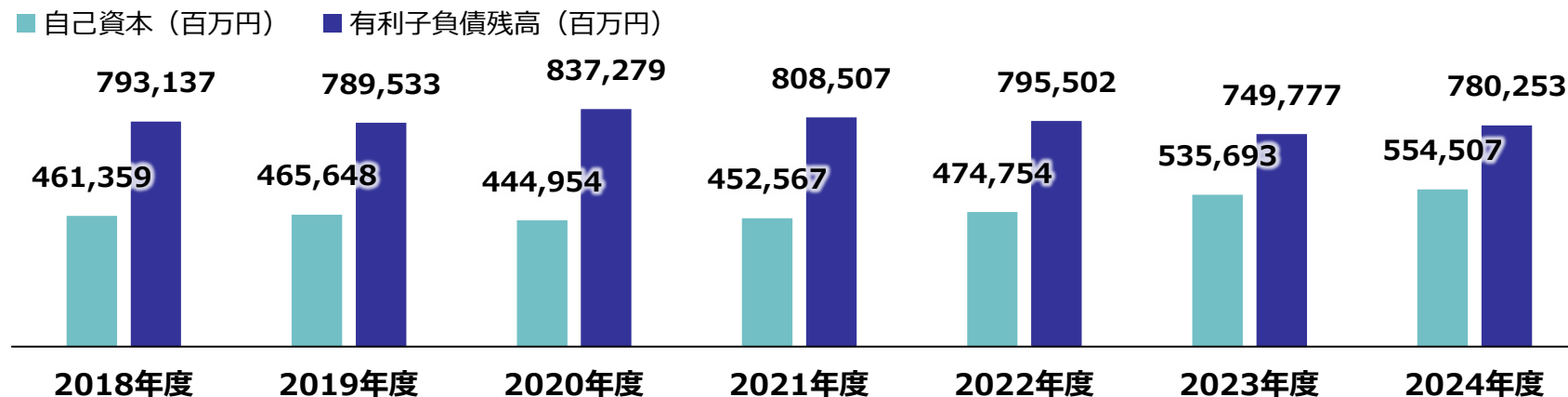
## Ⅱ. これまでの財務指標の推移と現状認識②（株主資本コストと資本収益性）

### ROEの推移

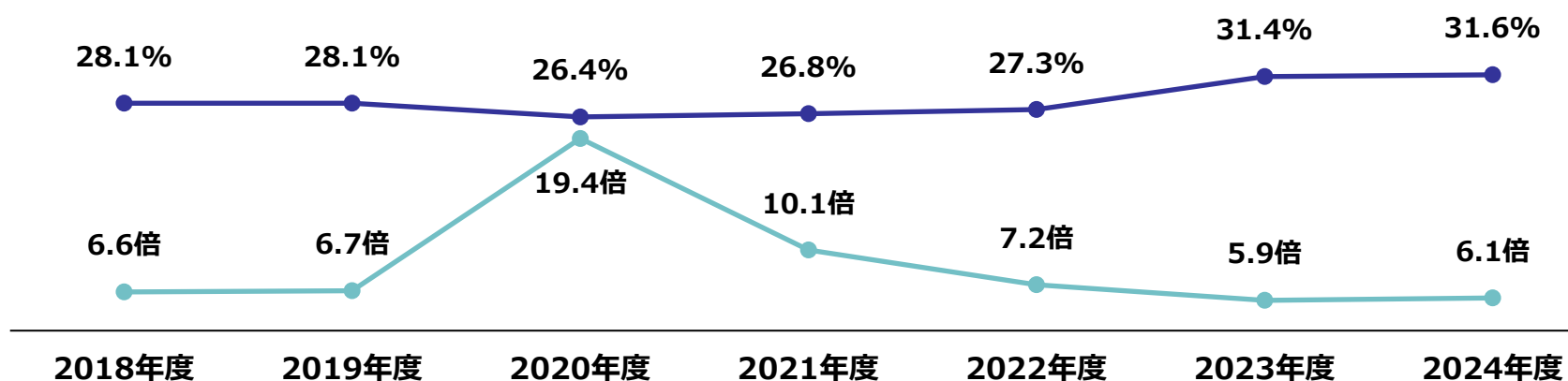


- 当社の株主資本コストはCAPMベースで概ね5～6 %程度。
- 市場の期待リターン等は、より高い水準であると認識。
- 中長期的に市場の期待リターンを上回るROEの水準の確保が必要。

## Ⅱ. これまでの財務指標の推移と現状認識③（財務健全性）



有利子負債は  
7,500～8,400億円程度に  
落ち着いている



自己資本比率

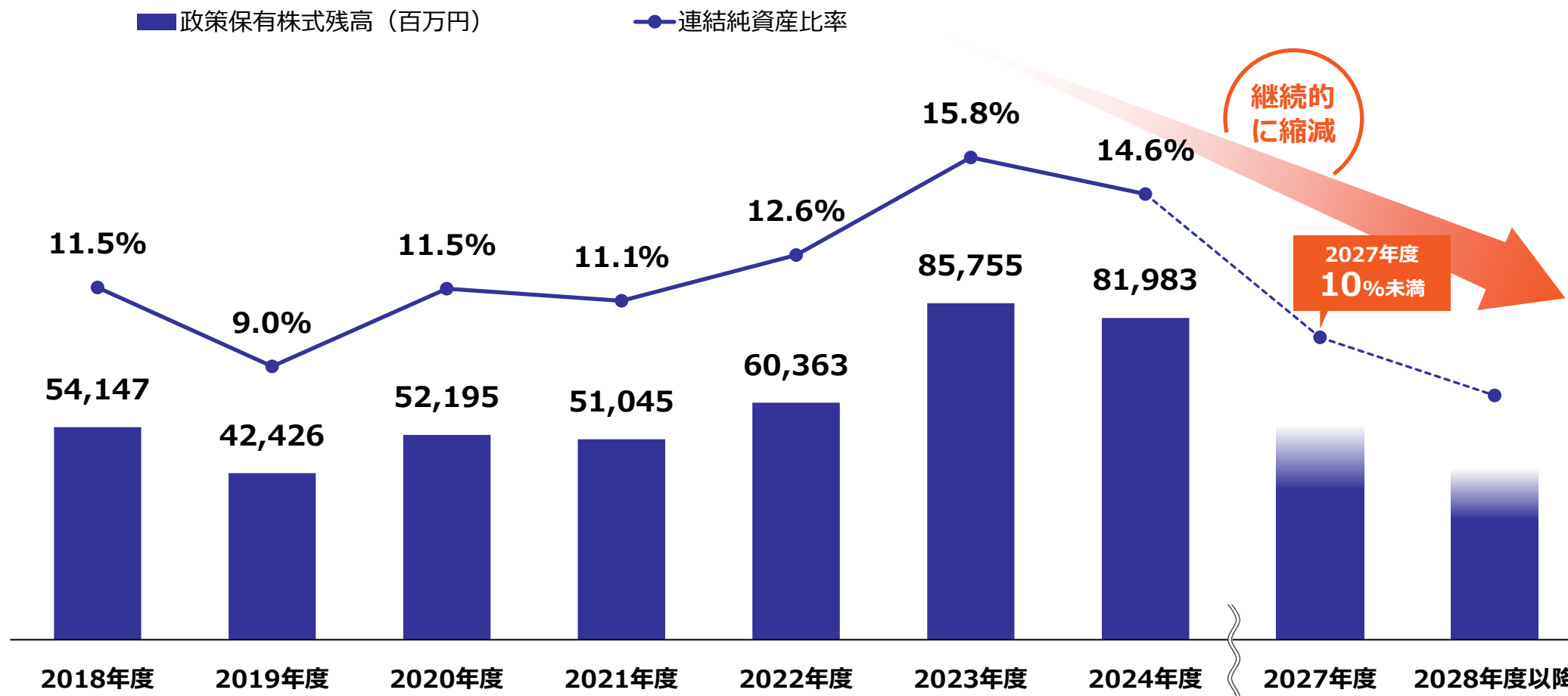
持続的に向上中

有利子負債／EBITDA倍率

EBITDA水準の向上により  
着実に改善

- 財務健全性は着実に向上。有利子負債残高は7,500～8,400億円程度で推移。
- 自己資本比率は継続的に向上しており、有利子負債／EBITDA倍率も着実に改善。
- 今後も成長投資や株主還元とのバランスを図りつつ、中長期的に財務健全性を維持していく。

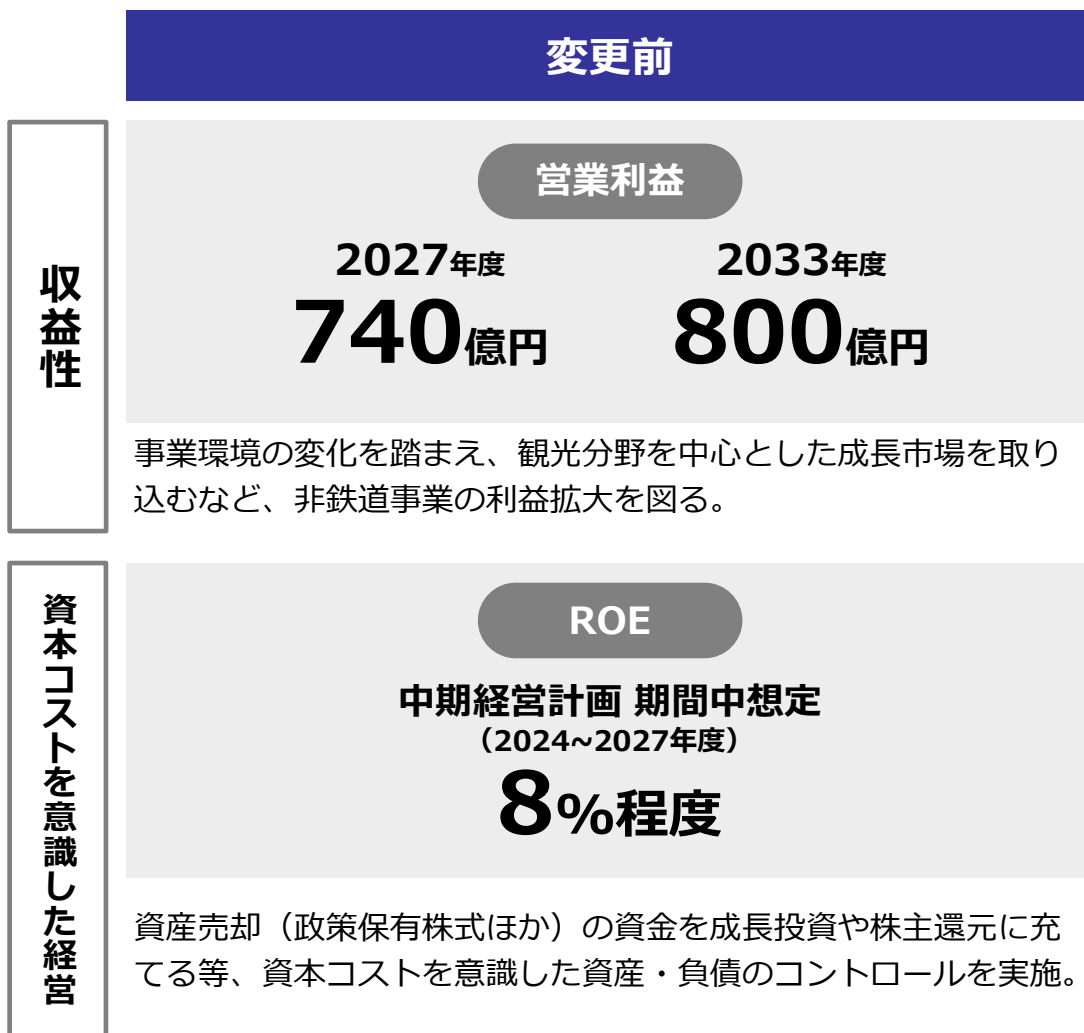
### Ⅲ. これまでの政策保有株式の推移と今後の売却計画



- 2024年度において政策保有株式を約100億円売却。2024年度末の連結純資産に占める比率は14.6%。
- 2027年度末において連結純資産に占める比率を10%未満とし、その後も継続的に縮減を図る。

## IV. 中長期的な財務目標の見直しについて①（収益性・資本コストを意識した経営）

### ■ 意識する経営指標と想定値



## IV. 中長期的な財務目標の見直しについて②（株主還元・財務健全性）

### ■ 意識する経営指標と想定値

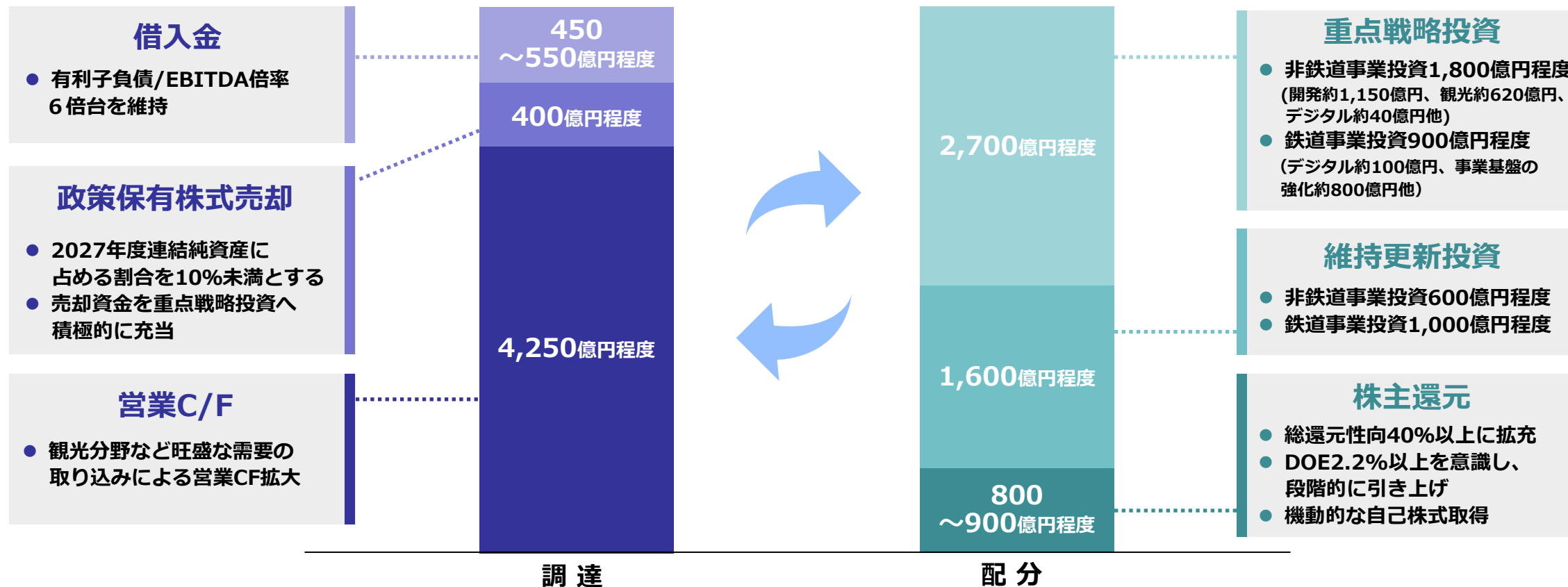
| 変更前  |                                                                                                                                              |
|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 株主還元 | <div>総還元性向</div> <div>中期経営計画 期間中想定（2024～2027年度）</div> <div>30%以上</div> <div>成長投資・財務健全性とのバランスや今後の業績動向を踏まえつつ、配当と自己株式取得を柔軟に組み合わせて株主還元を充実。</div> |
|      | <div>有利子負債／EBITDA倍率</div> <div>2027年度</div> <div>6倍台</div> <div>さらなる成長に向けた投資を進めるとともに、池袋西口再開発の大規模投資を見据え、有利子負債をコントロール。</div>                   |



| 変更後       |                                                                                                      |                                                                                            |                           |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------|
| ～2027年度まで |                                                                                                      | 2028年度～                                                                                    |                           |
| 株主還元      | <div>総還元性向</div> <div>中期経営計画 期間中想定<br/>(2024～2027年)</div> <div>40%以上</div>                           | <div>DOE</div> <div>中期経営計画 期間中想定<br/>(2024～2027年)</div> <div>2.2%以上を意識し<br/>段階的に引き上げ</div> | 2028年度以降<br>さらなる<br>拡充を検討 |
|           | 中期経営計画期間中においては配当と自己株式取得を組み合わせた総還元性向を40%以上とし、2028年度以降はさらなる拡充を目指す。                                     |                                                                                            |                           |
|           |                                                                                                      |                                                                                            |                           |
| 財務健全性     | <div>有利子負債／EBITDA倍率</div> <div>～2030年代半ば</div> <div>6倍台</div>                                        | <div>自己資本比率</div> <div>～2030年代半ば</div> <div>30%以上</div>                                    |                           |
|           | 収益性の向上によるキャッシュフローの増加に加え、政策保有株式売却資金や借入金を機動的に活用することにより、有利子負債/EBITDA倍率、および自己資本比率の中長期的な維持を図り、財務健全性を堅持する。 |                                                                                            |                           |
|           |                                                                                                      |                                                                                            |                           |

## V. 中期的なキャッシュアロケーションについて（2024～2027年度）

### キャッシュアロケーションのイメージ（中期経営期間中想定）



財務健全性を堅持しつつ、資本効率性の向上に向けたキャッシュアロケーションを実施。